

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 036	提案機関名 全農神奈川県本部
要望問題名 国産粗飼料の普及を妨げる課題の検討と研究について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 国が2030年までに粗飼料自給率を100%にする方針を掲げている中、各生産者は輸入粗飼料に頼っているのが現状であり、更には昨今の情勢から飼料代が高騰しているため、生産者にかかる負担は大きくなっている。昨年度行われた「粗飼料ネットワーク分科会」において国産粗飼料の利用促進の検討をすすめているが、普及には下記の課題があることから解決のための検討と研究をお願いしたい。 ① 荷姿がロール状で大きく取り扱いに難がある。 ② 国産粗飼料への切り替えによる乳質や嗜好性等への影響が心配である。 ③ 神奈川県内では自給飼料耕作地の確保が難しいうえ、設備投資が足かせとなりすすまないことが想定される。産地から購入する場合は輸送コストが高い。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ご提案いただいた、国産粗飼料の普及を妨げる課題については、畜産農家が安定的に経営するうえで重要な課題であると考えます。 ① 流通する国産粗飼料の荷姿はロール状が一般的であり、当所では対応が困難です。 ② 飼料の切り替えは慎重に行う必要がありますので、その際には成分分析を行うことが推奨されます。なお、日本標準飼料成分表に記載の一般成分組成では、国産粗飼料（北海道産チモシー）と輸入粗飼料に大きな差は見受けられませんでした。 ③ 農地や設備投資に限られることから、当所では従来からの飼料作物の生産に加えて、WCS用稲や飼料用米などの水田を活用した飼料生産の支援を行っています。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考	「北海道のチモシー主体採草地における牧草生産の現状と課題」北海道天北農業試験場、北海道釧路農業試験場、北海道立新得畜産試験場、北海道立滝川畜産試験場、北海道北見農業試験場、農業改良普及センター（1999） <a href="https://www.naro.affrc.go.jp/org/harc/seika/h11/cryo99092.html">https://www.naro.affrc.go.jp/org/harc/seika/h11/cryo99092.html</a> 「天北地方における主要イネ科3草種の採草利用時の生育・飼料特性」北海道立農業試験場（2007） <a href="https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010752279.pdf">https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010752279.pdf</a>		